

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



熊本県山江村
が応援するふるさと名物

©やまえ栗の加工品群

熊本県 球磨郡
山江村役場 企画調整課
0966-23-3112



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

熊本県山江村

山江村は、熊本県南部・球磨郡に位置し、北は五木村、東は相良村、南は人吉市、西は八代市及び球磨村と隣接しています。また、東西に9km、南北に18.6km、総面積12,121haであり、このうち約9割を占める山岳は、北進するにしたがって、丘陵地域(畑・樹園地)となり、このうち85haで栗の生産が行われています。

本村は、相良三十三観音の一つである「合戦峰観音堂(十二番札所)」を始め、国指定重要文化財である「山田大王神社」や「毘沙門天立像」、「淡島神社」山田村の伝助の墓など数多くの歴史的資源に恵まれています。

また、九州自動車道人吉インターチェンジを有し、熊本市まで約60分、福岡都市圏まで約2時間という交通の利便性の高い地域です。

そして、本村の宝物である“走る産業遺産「ボンネットバス マロン号」は、平成4年に村民有志の手で復活を遂げ、各種イベントにおいて活躍しています。

本村を含む人吉球磨地域は、今回日本遺産に認定されました。これは地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。

これにより、観光交流人口の増加、それに伴う経済効果などが期待され、人吉球磨地域一丸となって、地域活性化を図ります。



山江村(役場周辺)
航空写真



走る産業遺産
ボンネットバスマロン号

地域の
プロフィール



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

熊本県山江村

地域の プロフィール

やまえ栗は戦前より、小面積ではありますが改良された品種を栽培してきました。昭和30年代後半になると、山間地のため稲作より栗で収益を上げようと積極的に栗栽培に取り組み、農業構造改善事業により、ブルドーザを村で購入し、利用されていない里山を段階工に造成するとともに、茨城県で栽培技術を研修するなどの取組が行われてきました。

その後、造成、苗木の補助、生産者組織の立ち上げ、ヘリコプターでの航空防除、栗技術指導員制度の導入、果樹共済への補助、選果場の建設など、特産品として全面的に事業を推進してきました。

また、他地域より早く農協の共販体制が整ったこともあり、「やまえ栗」のブランド化が図られ、市場での評判もよく高値で取引され、昭和52年には天皇陛下への献上栗として更に知名度を上げました。

しかし、栽培者の高齢化、後継者不足、イノシシやシカなどの獣害被害に伴い、栽培意欲の低下は否めず、収穫量、栽培面積ともに年々下降気味です。

また、当地域農協合併により「やまえ栗」のブランドも消滅した状態にありました。



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

熊本県山江村

このようなことから平成12年度より中山間地域等直接支払制度において、栗の主生産地域を指定、平成15年度には物産館を建設し、栗を使った加工品の製造・販売、ふるさと便による「やまえ栗」の全国発送を行い、ブランド復活や関係農家所得の増加、また生産意欲の増進を図ってきました。

地域の
プロフィール

昭和52年8月10日発行

広報やまえ47号



昭和52年10月25日発行

広報やまえ49号



1

主な地域資源

◆活用している地域資源：くり（やまえ栗）

やまえ栗は盆地特有の寒暖の差、赤土の肥沃な土壌、また南向きの丘陵という恵まれた環境で育まれ、昭和52年には天皇陛下へ献上されその名声を誇りました。

しかし、最盛期は約410トンの収量であったのが、現在は約150トンと減少しています。

これは、生産者の高齢化や鳥獣被害等が原因として挙げられますがブランド化を図り差別化していくことで、底上げをしていく必要があります。



①大人気
山江の栗まんじゅう

◆やまえ栗の加工品群

①山江の栗まんじゅう

山江村の特産品としてサービスエリアや物産館で好評をいただいている“山江の栗まんじゅう”は程よい甘さと素朴さが自慢の大ヒット商品です。

②やまえ栗渋皮煮

山江栗の主な特徴として、その“粒の大きさ”が挙げられます。特に銀寄という品種の中でも、大きいものを使用した渋皮煮は、5粒1万円で販売されており、フラッグシップ商品として位置づけられています。また、通常の渋皮煮もクルーズトレイン“ななつ星in九州”やJAL機内食のデザートとして使用されています。

③山江のびっ栗だんご

栗と餡をもちもち食感の生地で包み、蒸して作る“山江のびっ栗だんご”はその名のとおり、ふんだんに栗を使っており、食べる人を驚かせます。

④栗んとう

渋皮煮を生地に練りこみ油で揚げた商品。栗の風味と香ばしさが後を引く美味しさです。



②上品な味わい
やまえ栗渋皮煮



③栗がぎっしり
山江のびっ栗だんご



④栗んとう

2

ふるさと名物

1

独自の支援策

◆ 各種補助事業

本村では平成3年度より苗木・肥料の購入補助、それに加え平成25年度からは鳥獣対策のための電気柵設置費補助等を行い、生産農家の意欲増進及び負担軽減を目的として支援を行っています。

また、低樹高栽培の推進と良質栗の生産を目指し、村で委嘱した栗技術指導員による剪定も行っています。指導員は、栗の現状、情勢をよく認識すると共に現地の状況を勘案し、立地条件に応じた技術指導助言を行います。

補助対象	対象面積	対象経費	補助率	
苗木購入補助	5a以上	新植・会食に係る苗木購入経費	8/10以内	
		補植に係る苗木購入経費	1/2以内	
肥料購入補助	5a以上	土壌改良、高品質果樹生産に係る肥料購入経費	上限10,000円	1/2以内
鳥獣被害対策施設整備	5a以上 3戸以内	被害防止の資材及び設置費用	9/10以内	
耕作放棄地再生	5a以上	刈払・整地・作業路整備等の再生経費	7/10以内	
改植支援	5a以上	優良品種の改植	50,000円/10a	
技術指導員派遣利用料	指導員1人(8時間)		1日 5,000円	半日 2,500円



豊かな環境で育まれる
“やまえ栗”



栗の剪定状況

1

独自の支援策

◆物産館“ゆっくり”による商品PR・販売促進

物産館ゆっくりは、山江村の物産のブランド推進と販促拡大を目的として平成15年に設立されました。

ここでは、農家から栗を仕入れ、生栗としての販売、また、山江の栗まんじゅうや、山江のびっ栗だんごなどの加工品の製造・販売を行っています。

また、ショッピングモールや百貨店等の催事でも外販も行っており、栗加工品のPRや販売促進活動を行っています。

そして、毎年9月には栗まつりが開催され、栗の掴み取りや、栗まんじゅうの早食い大会など、収穫を祝い様々な催しが行われます。



物産館ゆっくり 全景



栗まつりの様子